みなみみのわ

議会だより

No.155
2026.11.1
発行



若者議会2026！

未来へつなぐ若い力



子どもたちと一緒に遊ぶ
「学生ボランティア」

一般質問動画 配信中

二次元コードから各議員の一般質問動画が観られます。
インターネット村ホームページ➡村議会➡本会議録画中継➡定例会



若者議会2026! …… p2〜3
村民の声を聴く会 …… p4〜5
9月定例会・決算特別委員会 …… p6〜8
議会活動…… p9
議会アンケート結果…… p10〜11
一般質問…… p12〜18
予告 中学生議会2026！ …… p19
きらきら村の仲間たち（学生ボランティア） p20〜21
モニターの声…… p22



若者議会2026！

7月30日、若者の村政や議会への関心を高めることを目的に「若者議会」を開催しました。当日は3名の若者議員が参加し、活発な質疑応答が行われました。ここで出された意見が、今後の村政運営に活かされることが期待されます。

▲動画はこちら





三木（みき） 敦朗（あつろう）　議員

問　ツキノワグマ対策として、他市町村と連携を予定しているのか。

村長　本村はツキノワグマの生息地域や移動経路で伊那市、箕輪町とつながっているため、両市町のゾーニング計画との連携を進めている。県の上伊那地域野生鳥獣被害対策広域連携推進協議会へ河川敷や藪の刈り払いなどを提案するとともに、必要な連携を進めていく。

問　大芝の湯の改修後、教育や普及啓発の場として活用する計画はあるか。

村長　改修後の大芝の湯は、脱炭素や森林資源の循環利用を伝える象徴的な施設になる。木質チップボイラーの仕組みや村有林の伐採からチップ化、熱利用、再造林までの流れを紹介する展示物を設ける予定。学校の環境学習や地域団体の研修への活用も検討し、安定稼働後は森林資源の循環利用や脱炭素への理解を深める活動につなげていく。

問　ごみ分別の目的や再資源化について、村民に周知・啓発する機会を設ける考えはあるか。

村長　説明会や回覧板、広報等を通じて、分別方法だけでなく再資源化の流れや分別の理由も説明してきた。今後も転入時の窓口説明や研修会、出前講座、広報、村ホームページなどを活用し、継続して発信していく。

問　外国人住民に災害情報を確実に伝えるため、「やさしい日本語」による情報発信や防災面での連携を進める考えはあるか。

村長　「やさしい日本語」は、外国人住民だけでなく、高齢者や障がい者などにも分かりやすく伝えるうえで有効であり、対応を進めていく。避難行動要支援者名簿は、外国籍であることだけで登録対象とはならないが、災害時支援のあり方を検討する。外国人防災リーダーの育成についても実現の可能性を探っていく。

問　次期障害者福祉計画に、手話施策推進法の趣旨を踏まえた手話施策を盛り込む考えはあるか。

村長　障害者福祉計画は、手話施策推進法の趣旨を踏まえて策定する。現行計画では、手話通訳者や要約筆記者との連携、遠隔手話通訳システムの周知・利用促進などを位置づけている。R7年度からは文化講演会に手話通訳者を配置し、手話奉仕員養成講座の情報提供にも努めている。これらを具体的な取り組みにつなげ、実効性のある計画となるよう策定を進めていく。

問　子どもや高齢者などが安全に移動できるよう、公共施設への経路の安全性を調査する考えはあるか。また、避難所の雨水対策を進める考えはあるか。

村長　通学路は毎年、関係機関と合同点検を行い、歩道整備や道路標示などの対策を進めている。通学路以外も要望や利用状況を踏まえ、国や県に整備・安全対策を要望している。雨水対策は現地を確認し、必要に応じて排水経路の改善などを進めていく。

三木議員の感想

村の課題を発見し、その解決策を、限られた財源・マンパワーを前提としながら質問・提案するのは、難しくも貴重な経験でした。われわれの質問・提案が、政策のプロである村議のみなさんから見てどうだったのか、講評を頂ければよかったです。



岩村（いわむら） 大祐（だいすけ）　議員

問　R8年度の広島平和学習はどのように実施し、その学びをどのように生かしていくのか。

教育長　戦後80年の節目であるR7年度に初めて実施した。広島平和記念式典への参列、平和文化活動への参加、原爆関連施設の見学、被爆者や語り部との交流などを通じ、原爆の惨状や平和の尊さを肌で感じる場とした。R8年度は小学生5人、中学生7人が参加し、事前学習で一人ひとりが自己テーマを決め、広島での平和学習に臨む。学んだことや感じたことをまとめて発表する研修報告会を10月に予定している。研修の様子や自己テーマに関するレポートを村ホームページや小中学校の情報発信アプリで紹介するほか学校での報告も行い、平和について考える機会を広げていく。

問　今後の平和学習として、満蒙開拓平和記念館や登戸研究所平和資料館など、県内の施設を活用してはどうか。

教育長　県内には、満蒙開拓平和記念館や登戸研究所平和資料館など、平和学習に関する教材が身近に存在している。小中学校ではさまざまな授業で戦争や平和を扱った教材を活用し、計画的に学習している。また、総合的な学習の時間等で平和を探究することや、施設見学、被爆体験記の朗読なども可能である。満蒙開拓については、被害と加害の両面を含め、歴史を学ぶことが平和を学ぶことにつながる。こうした機会を捉え、歴史と事実の客観的理解、人権と生命の尊厳の尊重、未来志向の課題解決能力の育成を目指し、平和学習に取り組んでいく。

岩村議員の感想

この度の若者議会へ参加して、平和学習について質問をさせていただきました。現在は防衛費が増大していくなかで、戦争できる国へと徐々に変えられています。若者議員となって発言できる機会は滅多にないものです。多くの方が若者議会へ参加できるように声もかけていきたいと思います。



伊藤（いとう） 篤史（あつし）　議員

問　消防団員の確保に向け、区の役の免除や減税、大芝の湯の無料利用など、団員へのメリットを設ける考えはあるか。

村長　消防団員の確保は、地域防災力の維持・向上に直結する重要な課題である。区の役員免除は各自治会の判断となるが、消防団から各区長へ依頼している。減税や大芝の湯の無料利用はこれまで考えていなかったが、過去には就職、結婚、出産などの際にお祝い金を出す共済制度の提案もあった。今後は消防団や消防委員会からの意見をもとに、村としてどのような支援ができるか検討していく。

また、機能別消防団を拡充し、個人の技術・知識や多様な働き方に対応できる、参加しやすく柔軟な組織づくりを進めたい。消防団の社会的意義や、仲間との絆、消防技術などを学べる魅力も発信していく。

問　大芝荘に健康づくりのためのトレーニング機器を導入し、ジムのように活用してはどうか。また、消防団員の利用を免除する考えはあるか。

村長　健康寿命の維持・延伸は重要な課題であり、村ではウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなど、ライフステージに応じた健康づくりを進めている。辰野町の「アラパ」のような施設は有効だが、機器導入や施設改修には相当な費用がかかる。また、近年は民間のトレーニングジムも増えているため、民業圧迫の観点からも慎重な検討が必要である。消防団員への支援については、民間ジムの利用支援も含め、村民の健康増進や地域活性化につながる有効な方法を検討していく。

伊藤議員の感想

若者議会に参加して、普段何気なく過ごしている村ですが、たくさんの人の色々な思いと、それにこたえる役場の職員さん、議員さん、村長の努力や協力で成り立っていることがよくわかりました。今後もより良い村づくりのために、自分ごとして関心をもって村に関わりたいと思います。

村民の声を聴く会

村内12地区へ出向いて開催しました。

久保区（5月9日）



参加者：7名

北原区（5月24日）



参加者：9名

神子柴区（5月29日）



参加者：8名

沢尻区（5月31日）



参加者：3名

塩ノ井区（6月15日）



参加者：3名

北殿区（6月23日）



参加者：4名

南原区（7月11日）



参加者：5名

中込区（7月18日）



参加者：1名

南殿区（7月25日）



参加者：5名

参加者アンケートに寄せられたご意見

- 普段話をする機会が持てない議員や、年上の村民の方々の話を聞けて良かったです。
- 村内の問題がよくわかりました。
- 参加者が少ないのが残念。
- これからも続けてもらいたい。

令和8年度の「村民の声を聴く会」は、5月から8月にかけて全12区を回りました。会場の手配などご協力いただきました地区のみなさまに感謝申し上げます。

ご参加いただいた61名の皆様から多数のご意見をいただきました。



大芝区（8月1日）



参加者：1名

大泉区（8月4日）



参加者：6名

田畑区（8月25日）



参加者：9名

令和8年10月15日

南箕輪村長　藤城 栄文　様
南箕輪村教育長　尾形 浩　様

南箕輪村議会議長　笹沼 美保

村民の声をもとにした要望書

南箕輪村議会は今年度も村内12地区に出向き「村民の声を聴く会」を開催しました。それぞれの地区で出された意見をまとめ、今後の村政運営に役立て、村民の利益に資するため、ここに要望いたします。

記

1. 地区計画の要望件数に制限があるため、多くの計画が先送りとなっている。地区の課題を解決するため、地区計画の予算の増額を検討されたい。
2. 持続可能な自治会検討委員会での協議により実施された区の業務負担軽減について検証の上、区や組のあり方についてさらなる改善と検討をされたい。
3. 通学路の安全対策と緊急時の避難箇所確保のため、「安心の家」として登録している民家や店舗の役割の再確認と児童生徒への周知徹底を実施されたい。
4. 南原保育園の園児が園庭の代替として利用している南原グラウンドへの横断時の安全確保と階段の整備、グラウンド内へのトイレの設置を検討されたい。
5. 近年増加しているクマの出没への対策として、南部小以外にもクマの出没が懸念される地域の児童にクマ鈴の配布を検討されたい。



出された意見の中から村への要望をまとめ、10月15日に「村民の声をもとにした要望書」を提出しました。

参加していただいたみなさま、ありがとうございました。いただいたご意見は、今後の議会活動に生かしてまいります。



村民の福祉向上を望み決算認定

9/1～18　令和8年9月定例会　（議案名はわかりやすく簡略表記しています）

条　例	賛成	反対	結果
水道事業及び下水道事業の利益及び資本余剰金の処分等に関する条例の一部を改正する条例 ▶資金運用を柔軟に対応するための改正	8	0	可決
児童福祉法の一部を改正する法律の施行及び児童福祉施設の整備及び運営に関する基準等の一部を改正する内閣府令等の施行に伴う関係条例の一部を改正する条例 ▶子育て世帯や要保護児童への支援体制強化、施設運営の質向上のための改正	8	0	可決
補正予算	**賛成**	**反対**	**結果**
一般会計補正予算（第3号）（第4号）	8	0	可決
介護保険事業特別会計補正予算（第2号）	8	0	可決
後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	8	0	可決
水道事業会計補正予算（第2号）	8	0	可決
下水道事業会計補正予算（第2号）	8	0	可決
その他	**賛成**	**反対**	**結果**
工事請負変更契約の締結（大芝の湯リニューアル工事・建築工事） ▶工期の変更（竣工：令和8年11月21日→令和9年3月31日）	8	0	可決
工事請負変更契約の締結（大芝の湯リニューアル工事・機械設備工事） ▶工期の変更（竣工：令和8年11月21日→令和9年3月31日）	8	0	可決
工事請負変更契約の締結（大芝の湯リニューアル工事・電気設備工事） ▶工期の変更（竣工：令和8年11月21日→令和9年3月31日）	8	0	可決
工事請負契約の締結（大芝区基幹管路耐震化布設替工事） ▶株式会社　堀建設　78,650,000円	8	0	可決
財産の取得（避難生活支援体制整備） ▶晴海産業株式会社　14,300,000円  折り畳みベッド  タワーライト  パーティション  トイレ用テント	8	0	可決
教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて ▶任期満了に伴う増澤智代委員の再任	8	0	同意

定例会最終日の動画を
こちらからご覧いただけます

9月定例会は、村から提出された条例・補正予算など15議案すべて可決、同意。令和7年度決算は6議案すべて認定としました。陳情は2件採択、1件が不採択、1件が趣旨採択となりました。

議会提案	賛成	反対	結果
上下水道事業の老朽化対策・耐震化と経営基盤強化に向けた支援を求める意見書（提出者：百瀬）	8	0	可決 意見書
請願・陳情	**賛成**	**反対**	**結果**
消費税率一律５％以下への引き下げと消費税インボイス制度の廃止を求める陳情 ▶総務経済常任委員会は不採択 ●**賛成（三澤）**食料品だけ１％では減税効果は限定的。飲食店や農業者は厳しい経営になる。一律５％が最も経済効果が高い。	2 （三澤） （山﨑）	6	不採択
ホルムズ海峡封鎖等の影響による中小業者の緊急事態の打開を求める陳情 ▶総務経済常任委員会は採択	8	0	採択 意見書
国会に「非核三原則の堅持を求める意見書」の提出を求める陳情 ▶総務経済常任委員会は採択 ●**賛成（三澤）**日本は非核三原則「持たず、作らず、持ち込ませず」を国是としてきた。唯一の被爆国である日本で核兵器を持ち込めば、また攻撃の標的になる。	8	0	採択 意見書
スケートボードパーク設置のお願い ▶福祉教育常任委員会は趣旨採択 ●**趣旨採択に反対（百瀬）**趣旨採択で財政的にできないではなく、できる方法を考えるのが議会ではないか。 ●**趣旨採択に反対（唐澤）**２年前の議会だよりで示されたスケートボードの教室の写真がある。子どもの夢を実現させては。	趣旨採択に賛成 6	趣旨採択に反対 2 （百瀬） （唐澤）	趣旨採択

9/9～10　令和7年度　決算審査　決算特別委員会

予算は一年間の収支の見積もりであり、決算は収支の締めくくりです。金銭で見積もられた予算が、物品、財産、労働に形を変えて、住民福祉の向上にどのような成果を収めたのかの精算書でもあります。昨年度の事業が適切に行われたか、特別委員会で審査しました。



決算審査中の議員から村への質問をちょっと紹介

問　ぐるっとタクシーは利用できる地域が限定されているが、費用対効果をどう考えているか。村全体で利用できる制度を検討してはどうか？

答　伊那市で事業が始まった際、タクシーが通過する南部小通学区エリアも対象となった。
費用対効果が低いことは懸念しており、対象地域を含め、今後の公共交通を検討する必要がある。

問　まっくん生活支え愛事業の課題は？

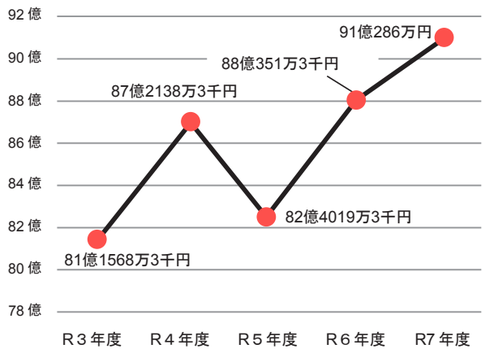
答　需要はあるがボランティアの担い手が不足している。広報による募集、地区社協との連携、また今後は集落支援員の活用も検討する。

問　高齢者補聴器購入費用助成の対象者や補助額を拡充できないか？

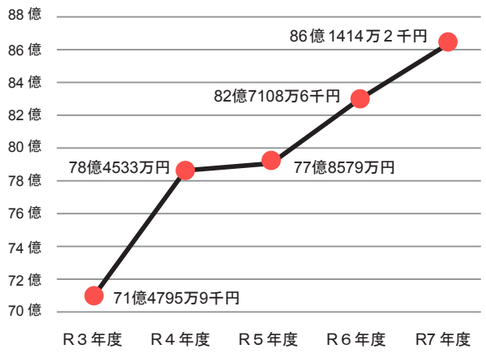
答　成人期の利用者もいるため、R9年度に向けて見直しを進める。

令和３年度～令和７年度までの決算推移

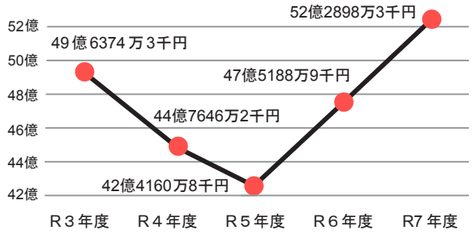
歳入の推移



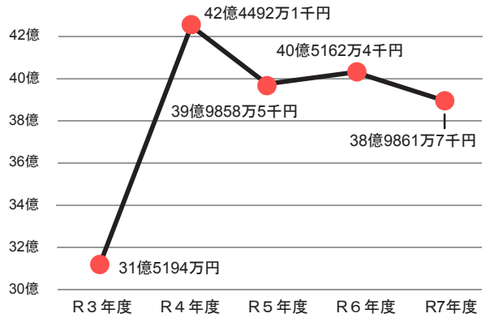
歳出の推移



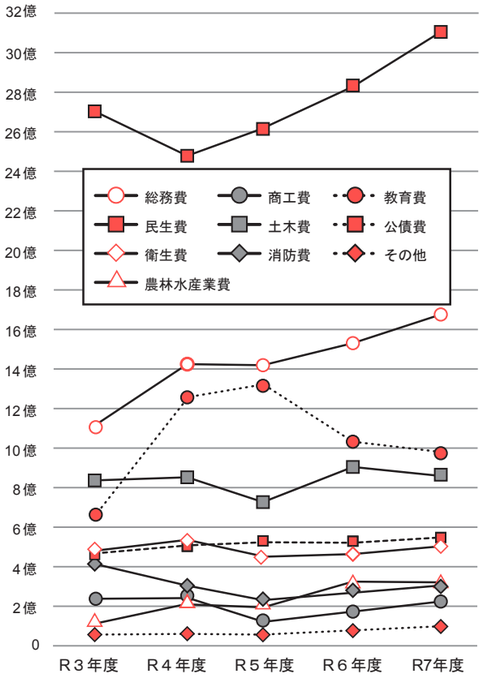
依存財源の推移 ※1



自主財源の推移 ※2



目的別歳出の推移 ※3



※１依存財源　国や県などから交付されることで得られる収入源です。国の政策や財政状況に左右されるため、自律的な財政運営を妨げる要因にもなり得ます。

※２自主財源　自らの意思で徴収や使途を決定できる収入源です。地方税や各種手数料などが含まれます。自主財源が多いほど独立性が高いと言えます。

※３目的別歳出　どのような目的に資金を使っているかを示す分類方法です。その年の歳出がどのような行政サービスに使われたかを、把握するために用いられます。

7/13 町村議会議員研修（松本市）



地方財政の深刻な課題と議会に求められる変革、そしてハラスメント根絶に向けた議会の責務という二つのテーマについて学んだ。

9/4 合葬式墓地完成見学会



多くの村民から要望のあった合葬式墓地が完成した。事前には約150件の問い合わせが寄せられ、関心の高さがうかがえる。

7/30 村内小中学校視察　福祉教育常任委員会

福祉教育常任委員会では、村内小中学校3校を視察した。各校で、施設の老朽化や安全対策、教育環境、ICT環境などを確認した。特に、夏季に高温となる体育館への空調設備、避難経路や転落防止などの安全対策、特別な支援を必要とする児童生徒のための専用スペースの確保が課題となっている。また、南部小学校では給食センターの老朽化、南箕輪小学校では旧給食センターの改修や駐車場不足などについて説明を受けた。



南箕輪中学校



南部小学校



南箕輪小学校

8/10 教育関係者との懇談会　福祉教育常任委員会



教育関係者と福祉教育常任委員会との懇談会を開催した。各小中学校の子ども主体の活動や地域との交流、個々に寄り添った支援について説明を受けた。支援学級の増加に伴う居場所の確保、不登校対応、教職員不足、部活動の地域展開などについて意見交換を行った。地域と学校が連携した子どもの居場所づくりなど、安心して学べる環境の充実についても意見を交わした。



南箕輪村議会に行ってみよう!

- どなたでも傍聴できます。（当日、氏名と住所を記入）
- 静かに傍聴してください。



傍聴席

南箕輪村議会を見に来てみませんか？

村の未来や日々の暮らしに関わる大切な話し合いが、議場で行われています。

次の議会は **12月1日（火）** 開催予定

※決定日時はホームページか議会事務局にお問い合わせください。

南箕輪村議会に関するアンケート

議会アンケート

アンケートの集計やすべてのご意見は、二次元コードを読み込むと議会ホームページでご覧いただけます。

全国的に議員のなり手不足や若者の政治離れが深刻な問題となっています。南箕輪村議会では、村民のみなさまが議会や議会制度をどのように捉えているかを知り、今後の議会のあるべき姿について分析、検証し今後の議会活動に活かすために村民アンケートを行いました。

調査期間：2025年12月1日～2026年3月31日
対　　象：18歳以上の1200人（無作為抽出）　**方法：**郵送（回答は返送またはWEB回答）
集計結果：電子申請191件、郵送297件　合計488件（40.67％）

あなたの年齢を教えてください？



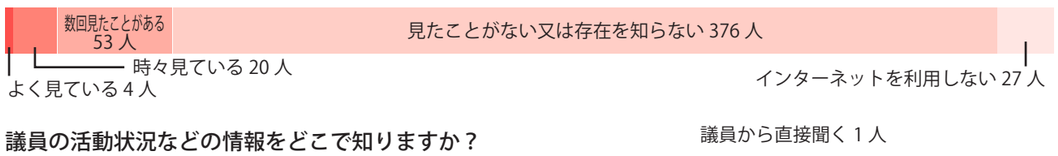
議会で何を決めているか知っていますか？



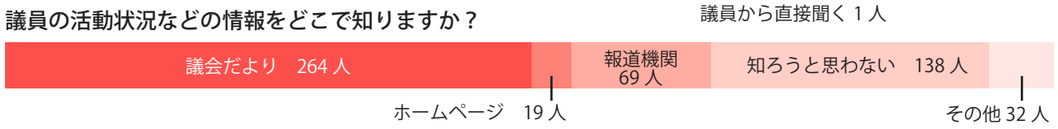
議会だより（年４回発行）を見たことがありますか？



議会のホームページを見たことがありますか？



議員の活動状況などの情報をどこで知りますか？



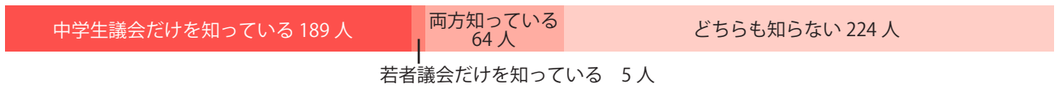
その他のご意見

- 村民の声を聴く会
- 知る機会が無い
- 広報みなみのわに載っている時読む
- 世間話
- 関心はあるがどこで情報を得られるか不明

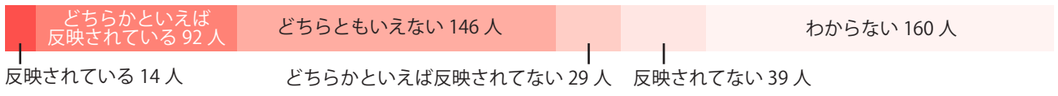
「村民の声を聞く会」に参加したことがありますか？



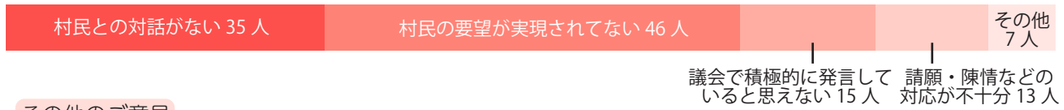
「中学生議会」「若者議会」を知っていますか？



議員が村民の代表者としての役割を果たし、村民の声が村政に反映されていると思いますか？



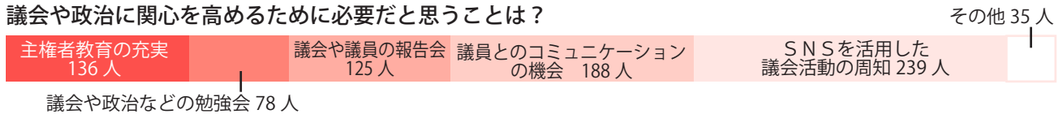
「どちらかといえば反映されてない」「反映されてない」を選択した方は、その理由を教えてください。



その他のご意見

- 利害関係のある団体の声しか聞いていない
- 自身の考えに近い人の声のみ聴き、主張をしていることが多いと感じる
- 相談してもその気で対応してくれない
- 地区の代表との意思が強いのか？村全体のビジョンがほしい
- サイレントマジョリティーの声が汲み取られていない
- 報酬に見合った活動をしていると思えない

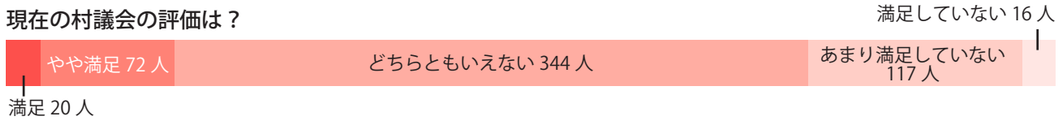
議会や政治に関心を高めるために必要だと思うことは？



その他のご意見

- 村議会議員が日常的に村民のニーズを探り、政策形成能力を高めること
- 有名議員、アイドル議員など、まずは村民に興味をもってもらうことが大事
- いかに自分たちの生活に影響があるのか、具体的にわかりやすくSNSなどで発信していただきたい
- 村民とのコミュニケーションの工夫
- 「全体を知ってもらうこと（詳細）」と「興味関心を持ってもらうこと（誘導）」を分けてコンテンツを作ることが効果的
- 村ホームページから議員のプロフィールに飛ぶようにして、そこに要望欄を作る
- 選挙時の公約に対して自身の活動実績を定期的（年1回とか）に公表
- 村の将来について危機感を持たせる
- "堅苦しさ"をなくすこと

現在の村議会の評価は？



その他のご意見　※自由記述欄のご意見多数のため、議会ホームページよりご確認ください

アンケート結果を受けて

毎年継続して開催している「村民の声を聴く会」は、参加者が限定的であることから、今後はより幅広い住民から意見を聴くことができる手法やツールの検討が必要。また、議会ホームページの充実を図るとともに、ケーブルテレビでの放送時間やYouTube配信など、議会活動や情報を適時・効果的に発信する取り組みも進めていく必要があります。今回のアンケートで寄せられたご意見を真摯に受け止め、今後も住民の声を議会活動に反映しながら、より開かれた議会を目指し、住民の代表として議会の活性化に努めてまいります。

アンケートにご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



山﨑文直

問 南田橋に歩行者専用の橋の設置を

答 主要な通学路で、長野県との協議が必要（村長）

問　通学路の整備が進み安全性が高まっている一方、多くの橋が歩道と車道を兼用している。特に登校する児童生徒と通勤車両が重なる大泉川の南田橋付近について、歩行者専用橋を設置できないか。

村長　歩行者用の橋については、地元区からも要望がある。この地区は、自転車を除く車両を対象として、日曜・祝日を除く午前7時から9時まで、午後3時から5時までの通勤時間帯には車両通行止めの規制を行っている。南田橋北側の住宅地については、東側に国道153号、南側に大泉川、西側には殿村八幡宮の林があり、道路網が限られている。そのため、通勤者は南田橋を経由して村道6号線を利用する車が多い。一方、子どもたちは田畑・神子柴地区から通学する場合、この南田橋が重要な通学経路となっている。近年、住宅が増えており、歩行者の安全確保についても課題として認識している。村内には、歩行者の安全確保を目的として設置された橋梁はいくつかあり、村道6号線の花壇があるところや、西天竜水路の北側に歩行者専用の橋が架かっている。また、南箕輪小学校近くには歩道橋がある。大泉川に歩行者用の橋を設置するには、河川管理者である長野県との協議が必要になる。河川の流下能力や橋の構造、用地、既存の橋との位置関係、整備費用などを考えていく必要がある。特に橋梁となると多額の費用を要する。その後の維持管理や点検の費用も少なくないと考える。しかし、今回の地区要望も考慮し、まずは現地の通学状況、交通状況を把握して、どのような安全対策が可能なのか、県とも相談しながら考えたい。



歩行者と車両が重なる南田橋

グリーンベルトの活用と周知

問　グリーンベルトの目的が十分理解されていない面があるのではないか。必要性を広めるべきでは。

教育長　通学路のグリーンベルトの目的は、歩道のない路側帯を緑色に塗装し、ここは子どもが通る道であるとドライバーに周知する区画である。学校から放射状に、狭い通学路を中心に設置されており、総距離はR7年度末時点で約14.7Kmある。目的と効果は、①路面を緑色にすることで、通学路や歩行者の存在を強く認識させる、②車両のスピードダウンを促し、安全を確保する、③車道と歩行者のスペースをはっきりさせ、空間を明確化する効果がある。今後、ドライバーに周知していく。南箕輪小中学校への送迎場所は役場駐車場を指定し、登校時は通学路の通行を控えるよう促しており、かなり改善されてきた。

子どもたちへの安全教育は、小学校では1学期の前半に各学年で安全教室を行っている。その中で、グリーンベルトのある道路ではベルトの上を歩くよう指導している。警察官からも指導を受けている。ベルトは歩行者専用ではないため、注意するよう徹底する。安全見守り隊の協力も得ながら進めていく。

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



原　源次

問 温暖化対策実行計画の進捗状況は

答 目標達成に向けて取り組みを進める（村長）

問　本村では「地球温暖化対策実行計画」を作成し、温室効果ガス排出量を60％削減する目標を掲げている。現時点での進捗状況は。

村長　「地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づき、2030年度に2013年度比60％削減を目標として、計画的に取り組んでいる。しかし、現時点では、事業全体として削減が順調に進んでいるとは言えない。排出量が増加した原因は、近年の記録的猛暑による冷房使用の増加や、工場建設等に伴う上下水道の配水量・処理量の増加と分析している。目標達成は容易ではないと認識している。今後は、公用車の電動・ハイブリッド化、施設の断熱改修、大芝の湯への木質バイオマスボイラー導入など、省エネルギー化に加え、設備の低炭素化にも一層取り組んでいく必要がある。

問　村内全体の温室効果ガス排出量の状況は。住民の意識が薄れてきていないか。

村長　「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、村民、事業者、行政がそれぞれの立場で取り組んでいる。直近では、2010年度から13年間で26％減少している。現在、新築住宅は断熱等級5以上を目標としており、既存住宅についても断熱リフォーム補助を20件行った。再生可能エネルギーの導入では、家屋への普及率が15.8％となっている。廃棄物については、人口規模も考慮する必要があるが、総量として減少している。ごみの減量、分別、リサイクルへの取り組みが成果として現れている。2030年目標の達成は容易ではない。これまでの取り組みの延長だけでなく、住宅の省エネ化、再生可能エネルギーの導入、次世代自動車への転換、廃棄物の減量などを、さらに進めていく必要がある。

通学路の安全

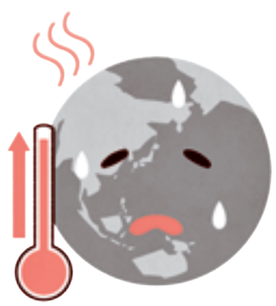
問　遠距離通学児童の天候異変時の避難対応は。

教育長　天候異変の兆候や発生時に、児童生徒の安全を第一に対応するため、小・中学校それぞれに対応マニュアルを作成し、地震や集中豪雨等の自然災害への対応を具体的に定めている。登下校時に異常気象が予想される場合は、雨雲レーダーの情報を参考に確認・判断し、危険が解消されるまで待機や集団下校で対応している。また、自分の命を自分で守る力を、学年の発達段階に応じて指導している。

福祉の充実

問　重症心身障害児の高等部卒業後の受け入れ体制の充実を。

村長　高等部卒業後は、医療的ケアに対応できる生活介護事業所等が限られており、家族の離職など、介護負担が大きくなっている。医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が、R9年4月から改正施行される。村として施設を単独で整備するのではなく、個人のニーズを把握し、必要なサービスにつなげる役割を担う。また、圏域の既存事業所の受け入れ状況を把握し、圏域や県関係機関と課題を共有しながら、受け入れ先の確保に向けた働きかけを進める。



地球温暖化のイメージ

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



三澤澄子

問 防災マップに基づく大規模災害への備えは

答 命を守るための地域防災力の向上に努める（村長）

問 天竜川下段地区は、浸水想定0.5～5m未満の区域となる。災害に対し、個々に応じた周知と危険箇所への対応にどう取り組むか。

村長 下段地区では、全戸防災マップに基づき避難場所や経路を確認し、支援が必要な人への個別避難計画を作成している。対象者140人のうち136人が完了している。北殿区では各組でマップを持って歩きながら確認する訓練を行った。ハザードマップを基本としつつ、それだけに頼らず、地域関係者と連携して地域防災力の向上に努める。

問 中段地区を横切る伊那谷断層上に、役場、小・中学校、公民館などの公共施設が集中している。南海トラフ地震では最大震度6弱が予測されている。減災への取り組みは。

村長 伊那谷断層帯が動けば、行政と避難所の両機能が同時に被災する。庁舎、公民館、学校の耐震改修・整備を進め、備蓄品や電源も備えている。避難所運営マニュアルを見直し、公民館には「ファーストミッションボックス」を設置した。防災マップで災害リスクを知り、自助・共助・公助の機能を発揮して地域防災力の向上に努める。

問 自主防災会の弱体化に対し、村の支援を。

村長 地区によって災害も異なるため、特性に応じた取り組みを進める。防災リーダーの育成や防災講座等、幅広い年代が関われるよう担当課で支援する。



各公民館に配布されたファーストミッションボックス

大芝高原森林整備計画の推進

問 県の森林づくり施策が、間伐・更新伐から主伐・再造林に重点化する方針に変わる。村の森林づくり実施計画や補助金への影響は。

村長 上伊那地方は急峻な山が多く、一律の主伐・再造林はそぐわないため、実情に応じた間伐・更新伐を要望している。森林整備には国・県の補助制度を活用しているが、主伐への方針転換による補助金縮小が懸念される。大芝高原は都市公園として安全確保や景観保全など、一般的な林業施策とは異なるため、森林整備を確実に進められるよう県に求めていく。

問 アカマツ伐採の進捗状況は。伐採方法や枯損木処理等の課題、補助金の継続は。

村長 計画に基づきエリアごとに伐採する。R8年は松枯れ巡視で200本を確認し、173本を処理したが、追いついていない。「みんなの森」は倒木の危険があり、安全管理が課題である。R5～9年までは県民税による補助制度があり、今後も国・県の予算継続を要望していく。

問 森の様相が変わってきている。100年以上育ててきた森を次世代につなぐため、村民が森づくりに関わる機会を。

村長 100年以上守ってきた森は財産であり、どのような森を次世代に伝えるかを森林づくり実施計画にまとめた。広葉樹の育成や樹種転換によって多様な森にしていく。これまでセラピー体験、自然観察、学校林作業、植樹、薪作り体験などに取り組み、今後も見学会や下草刈り等を継続する。「森林セラピー基地全国ネットワーク会議」の会長に就任し、R9年に大芝高原で全国交流会を計画している。次の村政200年に向け、新しい視点で大芝高原づくりをつないでいく。

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



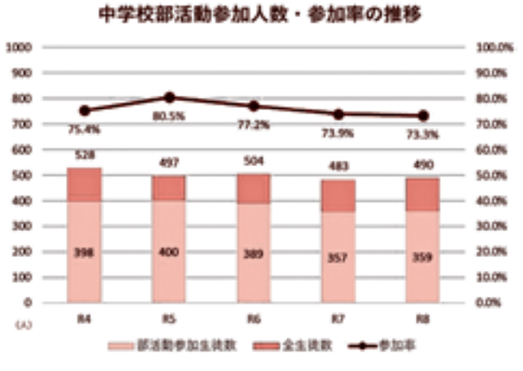
太田篤己

問 中学校の「部活離れ」の現状と問題点は

答 深刻な部活離れが進んでいるとは言えない（教育長）

問 南箕輪中学校における「部活離れ」の現状と問題点は。

教育長 中学校の過去5年間の参加率は75％前後で推移している。5年間の所属人数の平均は380人で、休部や廃部となった部活動はなく、一概に深刻な「部活離れ」が進んでいる状況とは言えない。一方、学校の部活動に所属しない理由は、①自分の時間を大切にしたい、②校内に希望する部活動がない、③学校の部活動以外に地域のスポーツクラブや文化活動に参加したり、より競技力の向上を目指して広域のクラブチームに所属しているなどあり、選択肢が多様化してきたと捉えている。部活動への参加のみをもって生徒の成長機会を評価するのではなく、生徒が意欲を持って物事に取り組める環境づくりを推進し、肯定的に評価することが重要であると考えている。今後の課題としては、部員減少により単独チームでの活動が難しくなるといった運営上の問題も生じるため、他校との合同チームの編成を検討するなど、状況に応じた丁寧な対応を進めていく。



教育委員会資料より

問 「部活離れ」への対策は。

教育長 中学校では、新入生説明会で、部活動において集団での活動を通して仲間との連帯感や協調性の大切さを学ぶこと、活動時間についても長時間ではないこと、部活動と勉強を両立させることなどを話している。また、平日の部活動への参加者を増やすため、中学生がＰＲ動画を制作し、小学生が視聴するといった取り組みを中学校側に依頼した。新1年生には体験入部の制度もあり、今後も継続していく。

住民にやさしい窓口ＤＸと庁内データ連携

問 住所変更に伴う「庁内データ連携」の現状と課題は。

村長 「住所変更手続きをしたにもかかわらず、水道料金の通知書や村報が旧住所に届く」ことの要因は、自治体情報システムの標準化に伴うシステムの仕様変更と、これに対応する庁内の運用が整備されていなかったことによる。システムの変更により、これまでの業務がどのように変わるのかを十分に把握し、関係部署間の運用をあらかじめ整理できなかったことが課題である。今後は、住民サービスにおいて不備が生じないよう対応していく。

問 住民に負担をかけない窓口の実現について、現在の進捗状況と今後の計画は。

村長 １つの窓口で手続きが完結する「ワンストップ化」は、転入時や死亡後の諸手続きにおいて、既に体制を整えている。「書かない窓口」は、証明書発行において庁舎内に証明書自動交付機を設置。コンビニ交付サービスにより各種証明書を取得できる。また、マイナンバーカードの一部手続きでは、申請書を自動作成できる。その他については、「書かない・待たない・迷わない」窓口の実現を進めていく。

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



百瀬輝和

問 長期休業中の食事が課題になっているが

答 実情に合った支援のあり方を検討する（教育長）

問　学校の長期休業中の食事が大きな課題となっているが、村の対応は。

教育長　夏休み、冬休みなどの長期休業中における子どもの食事確保は、全国的に大きな課題となっている。学校給食が提供されない期間、特に経済的に困難な家庭では、保護者が就労等で不在がちなため、子どもが十分な食事を取れない状況が生じやすく、重要な課題と認識している。放課後児童クラブでは昼食を提供している。南原区では、子ども食堂カフェを開催し、38人の参加があったと聞いている。特に昼食の提供が難しい家庭への対応は、引き続き教育委員会、福祉部門、地域団体が横断的に連携し、村の実情に合った支援のあり方を検討していきたい。

問　長期休業中、7割の保護者がストレスを感じている。同時に、祖父母もストレスを感じていると聞く。村が地域の力も借りながら取り組む必要があると考えるが、村の考えは。

教育長　昼食の準備や猛暑による外遊びの制限など、保護者が日々直面する困りごとがストレスとなっている。祖父母もストレスを感じているという声は、非常に重要な視点であり、問題はますます顕在化していると認識している。子どもたちの居場所づくりでは、猛暑で外遊びができない環境にあるため、今年度は一部地区で一定期間、公民館を開放した。涼しい公民館で宿題をしたり、遊んだりでき、子どもたちの居場所づくりの大きな可能性を示せた。R9年度は、さらに多くの地区の公民館で実施できるよう、区長会や分館長主事会にお願いするとともに、小学校の地区PTAにも参加を呼びかける。自炊力を高める食育の推進も進めていく。

地区計画事業

問　自主防災会など、減災対策への補助金制度が必要と考えるが。

村長　現状では、自主防災会の防災・減災に対して直接補助をする制度は設けていない。近年の災害の状況から、地域で平時から備えていくことは重要である。補助金制度も含め、どのような財政支援が可能か検討し、村全体の防災力、減災力の向上につなげていきたい。



自主防災会の避難訓練の様子

地域クラブ

問　地域クラブ認定制度について。

教育長　現在活動している13クラブは認定要件が整っており、認定地域クラブとして認定している。認定することで、①国からの公的支援を受けられる、②学校施設および備品の利用と減免、③大会やコンクールへ認定クラブとして参加できる、といったメリットがある。

問　今後の地域クラブの展開は。

教育長　現在、地域クラブでは少人数で活動しているクラブもあり、その対応が必要となっている。具体的には、広域連携による合同チームの結成について検討を進めている。また、平日の地域展開は未定の部分もあり、具体的に説明できる状況ではない。まずは休日の地域クラブ活動の安定的な運営を推進し、これまでに出ている課題を個別に解決しながら、今後の方向性を決めていきたい。



西森一博

問 福祉移送サービスの運用再検討の考えは

答 持続できるよう要綱等の見直しを検討する（村長）

問　福祉移送サービスの利用状況と現場課題の認識は。

村長　R7年度は登録者277人に対し6,280回利用され、生活を支える重要な足である。一方、事務負担増や予約重複、運転手の確保難や高齢化など課題が顕在化している。現在の体制継続は困難であり、持続可能な形を検討する。

問　通院など必要性の高い移動への重点化や、要綱見直しも含めた運用再検討の考えは。

村長　利用増加に伴い、福祉的必要性の精査や民間事業者への影響整理が必要である。R8年7月に拡充したタクシー利用券との役割分担を図り、通院等へ重点化する仕組みを作る。要綱見直しも含め運用全体を再検討する。

多様性と共生社会の推進

問　学校教育で「多様性」と「共生社会」を学び社会力を育む考えと、家庭や地域を巻き込んだ体験的な学びの進め方は。

教育長　社会力は共生社会の基盤である。R7年発表の中央教育審議会資料では、小学校35人学級で学習・行動面に困り感を抱える児童は約22.6人に上る。今後は多様性を包み込むインクルーシブ教育を目指し、教育大綱の基本理念に基づき「共に学び合う授業」を実践する。教員の指導力向上や伊那支援学校との副学籍制度による交流学習を推進する。また、探究学習や地域行事の継続に加え、「地域支え合いフォーラム」での連携強化、コミュニティ・スクールの立ち上げ準備、教育委員会だよりによる情報発信に力を入れ、地域全体で支える仕組みを作る。

問　デジタル化や業務改善、外部委託等を活用し、多様性と共生社会の広報・啓発を進める考えは。

村長　法令に基づく責務を果たしつつ、包括的な支援体制の整備を進める。デジタル化や外部委託はサービス向上の手段であり、生じた余力が直接共生社会対応へ振り向けられるものではない。各課題に応じ個別判断する。広報・啓発は抽象的理念でなく、個別具体的な施策の中で分かりやすく伝えていく。

ユニバーサルツーリズムの進捗と展開

問　ユニバーサルマップ作成やバリアフリー機器導入の進捗状況は。

村長　R7年度より着手し、R8年度はモニターツアーの意見や四季の情報を反映させたユニバーサルマップ作成を進めている。電動モビリティ（WHILL）3台の体験会を踏まえ、運用体制を整えて本格実装につなげる。



大芝高原内を走行する「ＷＨＩＬＬ」

問　「ユニバーサルフィールド」としてブランド化するターゲットと発信コンセプトは。

村長　ターゲットは障がい者、熟年者、子育て世代を含むすべての人である。『やってみたい』を『できる』に変える大芝高原をコンセプトに、誰もが楽しみ続けられる場として発信する。

問　他市町村や事業者との連携状況と今後の広域連携は。

村長　現時点で上伊那全体の具体的な連携体制には至っていない。まずは大芝高原での先行モデルを確立させ、段階的に広域展開を図る。

※原稿は原則、質問者が記載。質問・答弁は要約してあります。



唐澤由江

問 大泉教員住宅の再利用は

答 取り壊し、所有者に返還する（村長）

問　大泉教員住宅の駐車場に夜間、不審車両があり、通報する事例があった。住民の不安解消のため、村として再活用する考えはあるか。

村長　借地であり、R6年以降入居者がいない。今後は取り壊し、原状回復し所有者に返還する。

スクールバス運行の拡大

問　酷暑対策として、北原区のスクールバスを夏季も運行できないか。

教育長　小学生はH19年11月から、中学生はR5年11月から運行している。特に日照時間が短くなる冬季間に、児童生徒の安全を確保するため導入した。夏季については、日傘で暑さをしのぎ、水筒を持参するなどの暑さ対策が可能と考えており、夏季の運行は導入しない。

問　通学距離が長い大芝区、久保区、神子柴区もスクールバスの要望がある。拡充する考えは。

教育長　文部科学省の基準では、小学生はおおむね４㎞以内を徒歩通学とする範囲としている。スクールバスの拡充は、運転手不足などから安全性の確保が困難である。子どもの成長を考え、毎日歩いて通うことで体力を育んでほしいと考えており、拡充はしない。

学校給食の村産村消

問　学校給食に野菜を届ける農家数の実態は。

村長　学校給食センターには15件、南部小学校には17件が納品している。農政係にコーディネーターを配置し、月１回、学校給食の栄養士や調理員、生産者と会議を行っており、より身近な取り組みとなっている。

問　村産村消推進の課題と今後の取り組みは。

村長　学校給食の現場と生産者との連携を密にしている。課題としては、受け入れ時間帯があり、納品は午前８時から９時まで、または前日の午後１時半から４時までとしている。また、貯蔵場所の確保も課題である。さらに配送コストも課題で、学校給食は１回当たりの納品量が少量であるため、配送や納品などの手間が大きくなる。

大芝高原まつりの駐車場有料化の影響

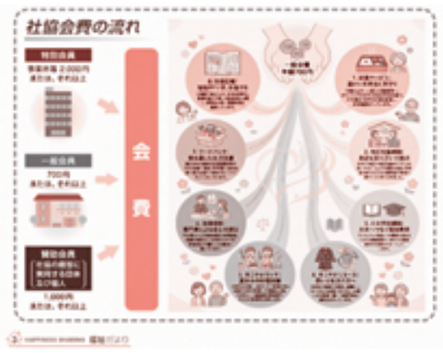
問　まつりに混乱や苦情はなかったか。また、R9年度に向けての課題は。

村長　これまでは慢性的な交通渋滞があり、シャトルバスや巡回バスの運行にも影響があった。受益者負担として料金を徴収し、警備体制の強化や無料巡回バスの運行に充てることで、自家用車の来場台数を適正化し、交通渋滞の解消を図ることを目的として実施した。事前予約制により、まつり当日の問い合わせや苦情もほとんどなく、来場者の時間帯もピークが遅い時間に移動した。渋滞は緩和された一方で、来場者数は減少した。

社会福祉協議会の会費納入

問　村報に納付書を挟んで納入を依頼していたが、福祉の切り捨てではないか。

村長　自治会が定期的に会費を集金することは、その趣旨を十分に理解した上での納入につながっているとは限らない。自治会が他団体の集金を担うことの是非について改めて考える必要があり、元に戻す考えはない。





きらきら村の仲間たち

学生ボランティア

今回は、ボランティア活動に参加する学生に注目しました。学生の皆さんにインタビューし、ボランティア活動への想いや、参加するきっかけなどをお聞きしました。

南箕輪村社協主催の「小学生夏休み体験・子どもランチ」を8月6日に訪問し、学生ボランティアの活動を取材しました。
当日は4班に分かれ、学生がそれぞれ班長となって子どもたちと一緒にランチ作りに挑戦。午後からは大芝高原へ移動し、子どもたちと一緒に遊びながら、楽しい時間を過ごしていました。







たぐち ましろ
田口真白さん
田畑区
岡谷東高校

Q ボランティアは何回目？

A 5回目ぐらい。

Q ボランティアに参加しようと思った理由は？

A 人のために何かやるのが好きだから。

Q ボランティアして、うれしかったことは何ですか？

A ボランティアで仲良くなった小学生や中学生が、2回目以降も自分のことを覚えて声かけてくれること。

Q 自分が成長したと感じることはありますか？

A 積極的に行動できるようになった。

Q 将来の夢や目標はなんですか？

A 教師や医療関係。直接人と関わる仕事がしたい。

Q ボランティアは何回目？ A 初めて参加しました。

Q ボランティアに参加しようと思った理由は？

A 教育学部に所属しており、児童と関わり将来に活かせる経験を積めると思ったから。

Q ボランティアして、うれしかったことは何ですか？

A 食事の片付けの際に、児童たちに「できるかな？」と問いかけたら、班のみんなで協力し役割を分担して自分たちで進められていたことに感動した。

Q 自分が成長したと感じることはありますか？

A 教育学的な視点で児童に接することができたこと。



むとうかいせ
武藤快世さん
久保区
松本大学

Q 将来の夢や目標はなんですか？

A 小学校教員。



すぎうらなつみ
杉浦夏美さん
箕輪町
伊那弥生ヶ丘高校

Q ボランティアは何回目？

A 1回目。

Q ボランティアに参加しようと思った理由は？

A 高校にあったボランティア募集の紙を見て、やってみたいと思ったから。

Q ボランティアして、うれしかったことは何ですか？

A 子どもたちとかかわって、色々な話をして、笑顔になれたこと。

Q 自分が成長したと感じることはありますか？

A 子どもと関わるのや話すのはあまり得意ではないのですが、楽しく取り組めたので、子どもと関わるのも楽しいなと思えたこと。

Q 将来の夢や目標を教えてください。

A 臨床心理士。いろいろな人を助ける人になりたい。

Q ボランティアは何回目？ A 1回目。

Q ボランティアに参加しようと思った理由は？

A 友達に誘われたから。

Q ボランティアして、うれしかったことは何ですか？

A みんなと仲良くなれた。自分の周りに小学生の子がいないので普段できない経験がたくさん得られたので、とてもいい思い出になりました。

Q 自分が成長したと感じることはありますか？

A 子どもとの関わり方、接し方。料理が全くできないので、みんなと一緒につくりながら成長できたと思う。



おおにしあやか
大西恵加さん
駒ヶ根市
伊那弥生ヶ丘高校

Q 将来の夢や目標はなんですか？

A IT関係。子どもと関わる仕事。薬剤関係。

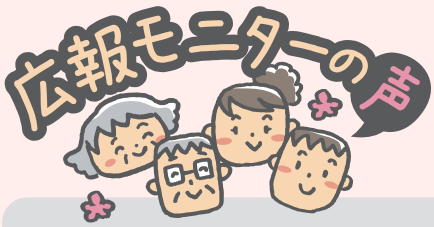
村内のボランティア団体は担い手不足などの課題に直面しています。「学生の力を借りたい」「一緒に活動したい」という声も届いています。学生と受入団体をマッチングする仕組みを進めています。学生の皆さんには、身近な地域に関心を持ち、様々な学びや新しい仲間との出会いを通じて世界を広げてほしい。そんな願いを込め、地域と学生を温かくつなぐ架け橋を目指します。

南箕輪村社会福祉協議会　地域福祉係　田中博美

南箕輪村社会福祉協議会では学生ボランティアを募集しています。
村内のボランティア活動団体と一緒にボランティア活動してみませんか？
※学生の活動支援に役立つボランティア活動証明を発行しています。

お申込み・お問い合わせ先：南箕輪村社会福祉協議会　☎76-5522





モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

紙面・議会への意見や感想

●紙面の長さや情報量のバランスが非常によく考慮されており、読みやすくコンパクトにまとめられていると感じます。編集に関わられている皆様のご尽力に感謝申し上げます。
●情報量がちょうど良く読みやすい。
●中学生議会2026、事前に学習会を開催し、生徒達なりの考えに興味あります。是非次回の議会だよりで活動や議会の内容が知りたいです。
●学級閉鎖時のフードロスについてはSDGsにほぼ達している事がわかり安心しました。
●サイバーセキュリティに対しては実際何が起きたのか、村民としては詳細状況がわかりかねますが、質問と回答から非常に脆弱である事はわかりました。
●「QRコード」という言葉がデンソーウェーブの登録商標ということで、「二次元コード」という言葉への置き換えが必要と思われますがいかがでしょうか。※ご指摘ありがとうございます。以後「二次元コード」に統一します。
●「きらきら村の仲間たち」で若手農業者を紹介し、声を聞く事ができ良かったです。
●資料としての二次元コード設定は詳細が詳しく知ることができて大変有効だと思います。ただ高齢者には操作が困難ではないでしょうか。情報は取りに行く時代とは言え、何か手に入り易い方法はないものかと考えます。
●議会議員政治倫理条例の制定は、タイムリーな内容で、詳細に解説されており面白かったです。
●ｐ６の地域公共交通視察の先進地域の記事内容「路線バスとデマンドタクシーの利用」「役割を明確化し、〝蓄積〟した利用データを基に計画を策定」している、という内容だったが、その自治体がやろうとしていることや実態を把握し問題解決のための的確な計画がすっきりと伝わる。さすが先進地域と思った。
●カラー写真もあり、字も大きく読みやすい紙面となっています。一般的に新聞なども同様ですが、カラー刷りの箇所は、特に読者に読んでほしいというものです。表紙、裏表紙以外に、村民に広く周知したい内容には、カラーで示した方がより伝わりやすいのではないかと思いました。
●２ページの請願について、教員不足を最優先課題として捉え、原因分析や改善策を調査した上で、国や県に実効性のある改善を求めてはどうか。また、教員の働き方や人事方針の柔軟な見直し、業務支援員の増員、デジタル化など、教育現場の環境改善も盛り込んではどうか。公共交通の見直しについては、限られた行政資源を踏まえ、真に支援を必要とする人への「公助」を充実させることが重要ではないか。そのためにも、利用実態などのデータを収集・分析し、基本方針を定めた上で具体的な施策を検討していただきたい。
●自治会加入率の維持向上に向けた提案について、先進的な取組や身近な成功事例を広く発信し、各地区での意識改革や負担軽減につなげてはどうか。
●自治会加入率は大きな課題だと思っているので今後も積極的に議論を進めていただきたい。
●一般質問の問答の内容は、住民の身近な問題が提起されていてわかり易い。実際にどのように改善されたか、回答がその後どうなったか等がわかると、良いと思った。
●議会議員政治倫理条例、審査請求には連署が必要ということですが、少々ハードルの高さを感じます。こうした意見集約について、政治倫理条例に限らず、村議の皆さんに直接意見や相談などができるホームページがあれば、より気軽に出来るのではないかと思います。

村への要望

●まっくんバスは、使いたくても使えない人が多いのでは？高齢者は停留所まで行くことが困難なのだと思います。
●猫の不妊・去勢手術の助成金3,000円は少ないと思います。
●地区社協の活動は、参加したいと思っても送迎がないと参加できない方が多いのでは。
●自治会へ未加入の方が多く居ると思います。加入の際のメリットやデメリットをしっかりと伝えて、現加入者と共に（新規も含め）地域を盛り上げて行ければと思います。
●「放課後児童クラブ」の利用者が増加していると聞きます。働く保護者が安心して預けられる施設、体制の強化を急いでいただきたいと思います。

編集後記

朝夕の風に秋の訪れを感じる季節となりました。今号では、予算が的確に執行されたかどうかを見極めるための決算審議の様子を詳しくお届けしました。「議会だより」が、皆様と議会をつなぐ架け橋となれば幸いです。今後も分かりやすく、親しみやすい誌面づくりに努めてまいります。(太田篤己)

すべての
モニターの声

議会だより
バックナンバー

広報委員会　委員長 三澤 澄子　副委員長 西森 一博　委員 原 源次・山﨑 文直・百瀬 輝和・太田 篤己・唐澤 由江

みなみみのわ 議会だより No.155 2026.11.1
●発行責任者／議長 笹沼美保 ●編集／広報委員会
Tel.0265-72-2104 Fax.0265-72-2463
〒399-4592 長野県上伊那郡南箕輪村4825-1 ●印刷／龍共印刷㈱
E-mail gikai-d@vill.minaminowa.lg.jp URL https://www.vill.minaminowa.lg.jp